

# 馬渡家の家系図（1）

これまで馬渡家に家系図がなかったので、過去帳、位牌、戒名札、墓地管理の埋葬許可書を基にして作成してみた。生年の記録がないものや人物関係がわからない部分もあるが、江戸時代の男性が20歳、女性が18歳くらいで結婚し、第1子をもうけたと仮定して作成している。馬渡家のルーツについて、言い伝えはあるが、それを証明する古文書などはない。過去帳や墓石に残る最も古い人物は「唯心院萬山一法居士」（戒名）と「榮昌院喜法貞觀大姉」（戒名）である。それよりも前の記述は過去帳ではなく、墓石もない。

当家が江戸時代、矢沢村一帯に広い土地を所有したのはなぜか。親戚の話では、九州の佐賀鍋島藩の所領に馬渡島（まだしま、現在の唐津市）から、馬を38頭引き連れて、50人ほどがこの地に住み着いたという言い伝えがある。馬渡家はもともと馬を育てる一族であった。東北地方は土地も広く、大昔から馬の生産が盛んであったため、この地に移住してきたとも考えられる。また、1680年頃に、このあたりの所領は三戸南部藩から八戸南部藩に代わり、荒れ果ててきた土地を開墾せよと奨励されている。ちょうどその頃、九州佐賀藩では天災が続き、洪水などの被害もあったようだ。こうした背景があり、開墾を目的に50人ほどが移住してきたのではないか、というのが自分の推測である。（それを証明する古文書などの記録はない。）

関ヶ原の合戦（1600年）の際に、佐賀藩鍋島氏の家来である馬渡又兵衛が京都伏見を攻略した記録がある。また、江上八院の戦いでも鍋島藩の家来として戦った記録や、恩賞を願い出た記録などもある。さらに、幕末の戊辰戦争（1868年）でも、馬渡又兵衛が戦いに加わっている記録がある。九州佐賀藩の馬渡家は、代々馬渡又兵衛の名を襲名しているようである。同様に、こちらの馬渡家も代々又兵衛の名を襲名してきた。これは、馬渡一族の一部の人がこの地に移住した後も、馬渡又兵衛を誇りに思って、この名を襲名していったのではないだろうか。「八戸南部藩の殿様が馬渡家に遊びに来ては将棋をしていた、その間に家来が浅水川の矢沢橋のたもとで馬の体を洗っていた。」という言い伝えもある。明治時代の戸籍には「平民」と記載されていることから、馬渡家は「士族」ではない、しかし、もともとは佐賀鍋島藩に仕えた馬渡一族の一部の人たちが、何等かの理由で移住し、土地を開墾し、広く土地を所有する地主となり、南部藩の殿様とも親しくさせていただいた、これが馬渡家のルーツと考えている。作成／令和2年（2020年）馬渡 康紀

## 1 馬渡〇〇 唯心院萬山一法居士

延宝8年（1680年）生まれ（推定）

元文2年（1737年）7月23日死去

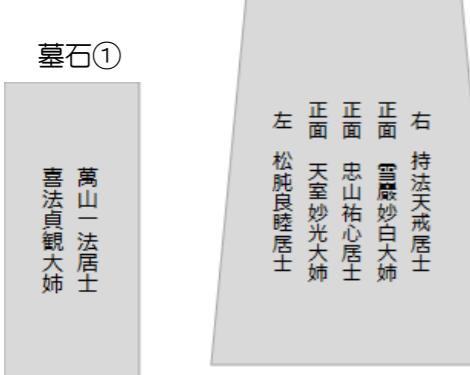
## 馬渡〇〇 榮昌院喜法貞觀大姉

天和3年（1683年）生まれ

安永5年（1776年）9月12日死去

※94歳で死去と記載あり

墓石②



## 2 馬渡又兵衛 天真院忠山祐心居士

宝永元年（1704年）生まれ

安永9年（1780年）6月2日死去

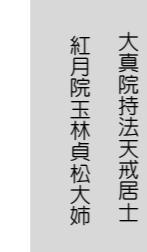
※77歳で死去と記載あり

## 馬渡〇〇 明心院雪巖妙白大姉

宝永5年（1708年）生まれ（推定）

安永3年（1773年）12月18日死去

墓石③



## 3 馬渡又兵衛 穏真院松肫良睦居士

享保9年（1724年）生まれ（推定）

明和4年（1767年）6月2日死去

※お寺の過去帳には又兵衛とあり

## 馬渡〇〇 恵寛院天室妙光大姉

享保12年（1727年）生まれ

寛政5年（1793年）4月1日死去

※67歳で死去と記載あり

## 4 馬渡又兵衛 大真院持法天戒居士

享保18年（1733年）生まれ（推定）

安永2年（1773年）4月24日死去

※お寺の過去帳に又兵衛とあり

## 馬渡〇〇 紅月院玉林貞松大姉

享保21年（1736年）生まれ（推定）

享和2年（1802年）5月10日死去

※過去帳に「又兵衛の嫁」とある

## 5 馬渡又兵衛 德満院無量大心居士

宝暦4年（1754年）生まれ（推定）

文政元年（1818年）5月17日死去

## 6. 馬渡又兵衛（申松）

### 専智院春光大榮居士

安永3年（1774年）生まれ

弘化5年（1848年）死去

※年齢記載あり

墓石や過去帳から考える「馬渡家の1代目～5代目の生年」

墓石①を見ると萬山一法と喜法貞觀大姉が夫婦であることがわかる。喜法貞觀大姉の生年が1683年であることから、1. 萬山一法居士の生年は1680年頃と推定している。この地に移住してきたのは1700年～1710年頃だろうか。墓石②は、2. 忠山祐心を真ん中にして雪巖妙白と天室妙光の戒名が並び、側面に3. 松肫良睦や4. 持法天戒の戒名が刻まれている。過去帳には「忠山祐心が又兵衛の祖」と記載されているが、墓石の並びから考えると、1. 萬山一法 2. 忠山祐心 3. 松肫良睦 4. 持法天戒の順であると考える。6. 馬渡申松の生年はわかっているので、男性が20歳前後、女性が18歳前後で子をもうけたと考え、逆算して1代目から5代目までの生年を割り出してみた。